D 141

母子間における被服色彩の嗜好性に関する研究 その7

梅花短大 家本 梓 個賀女短大 ○ 成田已代子 大谷女短大 小林昭子

藤原教育大

目的 衣服の色の嗜好性や似合うといった感覚がどのように形成されるのか、母子間にはどのような関係や影響が認められるか、あるいは、色の嗜好性はどのように形成されるのかといった問題に対しては、まだ効果的な回答は見出されていない。そこで、本研究においては、まず母子間の衣服の色の嗜好性と似合うと考えている色について、類似性と相違点を明らかにすることを目的に母子ペアでの調査を実施した。今回調査では、流行や時節の影響を軽減するために、一時期において各年代の調査を同時に行なった。本報での目的は、子供の成長と共に母子間の色の嗜好性や似合うと考える色の一致率の変化について検討を行ったので報告する。

方法 幼稚園児、小学生低学年、小学生高学年、女子中学生、女子高校生、女子中生大生とその母親を組にして、質問紙調査法による調査を実施した。幼稚園児は直接調査で、他児童、生徒、学生については、集合調査を母親にかえってこと、託送調査であるとこととなった。

被験者総数は、幼稚園児110名、小学生低学年児童134名、高学年児童570名、中学校生徒552名、女子短大生573名、調査地域は、大東区（一部、兵庫県、徳島県、滋賀県を含む）。調査項目・調査方法は、前回と同様のもの法を用いた。

結果 ① 母親の年齢が上がるほど一致率は高く、母親の影響が大きいことが示唆される。② 子供の年齢が上がると、嗜好範囲が拡大し、淡い色も好まれ、高学年では、独自の嗜好性が現れる。③ 子供の嗜好色に母子の年齢による差異は少ないとかから、独自の嗜好性よりも母親の影響が示唆される。

D 142

種々の被服デザインに対する色彩の適合に関する女子学生の判定

梅花短大 ○ 川端澄子 鳴門教育大 藤原康晴

目的 女子学生はカジュアルで若々しい服飾や、テーラードスーツのオーソドックスな服飾、女性的で大人っぽい服飾が様々な服飾を着ている。その各被服の色彩が異なるらしく、デザインも多彩である。制服の主な要素である色彩とデザインは、これらが複合して被服のイメージが構成されることが多く、この色彩と被服の間に認知された適合関係があるかどうかを評価するために女子学生を対象に調査した。

方法 最近の服飾雑誌からデザインの異なる被服を8種類選択し、1着ずつデザイン図を描いた。色彩はカラーチャートよりビビット、グレッシュ、ベートルトーンの中から8色を選択した。女子短大生132名に試料を1組ずつ配布し（平成2年6月教室）、各被服のデザインに各色彩がどの程度似合うと思うかを7段階で判定してもらった。その結果を順位に換算（順位を許す）し、ケンドールの一致係数を算出した。

結果 試料とした4種のデザインについてはすべてケンドールの一致係数が統計的に有意な値を与え、一致した判定がされていることがわかった。長袖のブラウスとミニーミーのギャザースカートのツーピースの場合、最もよく適合すると判定された色彩は、空色である。ついてでベージュ、オリーブ、黄、赤、紫色の順であった。シンプルでおとなしいデザインのこの被服は目立つビビット色がより落ち着いた色が適合すると判定されている。ミニ丈のサマーレスに対しは黄、赤、空色、緑、青、紫、ベージュ、オリーブの適合順であった。この夏期の若々しいドレスには鮮やかな色や濃い色が適合すると判定している。